

頸管長、胎児フィブロネクチン、予測精度、妊娠、早産、双胎.....1

双胎妊娠における早産を予測する上でbiophysical test と biochemical test の有用性を検討した無症候性の双胎妊娠において頸管長の短縮しているものでは早産のリスクが高いと判定してもよい。頸管長測定以外の biophysical test のいずれもが、早発陣痛をみた女性における早産の予測能は低値に留まった。胎児フィブロネクチンテストで陰性と判定された場合には翌週の分娩のリスクは低いと考えてよい。双胎妊娠における早産を予測する上でさらに正確なテストを開発する必要がある。

Prediction of preterm birth in twin gestations using biophysical and biochemical tests

Agustin Conde-Agudelo, Roberto Romero

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):583-595

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

妊娠、悪心、嘔吐、ondansetron、安全性.....3

現在のところ、アメリカにおける妊娠に伴う悪心、嘔吐の治療に処方されている薬剤の97.7%は適応となっておらず、またFDAによる妊娠中の安全な薬剤としての区分にも含まれていないものである。ondansetronの使用頻度が増えているが、FDAはその安全性は確認していない。2013年4月にFDAは妊娠中に認められる悪心、嘔吐に対しdoxylamineとpyridoxineの併用を承認したため、安全性が確認されていない薬剤に女性を被ばくさせる理由も認められなくなった。

Treating morning sickness in the United States-changes in prescribing are needed

Gideon Koren

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):602-606

【文献番号】 o02100 (妊娠悪阻)

複雑性付属器腫瘍、卵巣癌、超音波検査.....4

50歳超の女性において超音波検査で複雑性と判定された直径1～6cmの孤立性腫瘍が認められたものにおいては悪性の可能性は低いが、上皮性癌および境界型腫瘍であったすべての症例が追跡調査7か月までに腫瘍の増大が認められた。

Outcomes from ultrasound follow-up of small complex adnexal masses in women over 50

Elizabeth Suh-Burgmann, Yun-Yi Hung, Walter Kinney

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):623.e1-623.e7

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

子宮頸癌、上皮内病変、円錐切除、断端部病変、微小浸潤、再発.....7

子宮頸部上皮内病変において初回の治療で完全な切除が行われた場合、その後CIN2+に至るリスクは顕著に低下する。断端部に微小浸潤を認めた女性において温存療法は禁忌となる。断端部にCINが認められた場合には病変が残存するリスクは高くさらに治療が必要である。

Management of stage Ia1 squamous cervical cancer and the importance of excision margins: a retrospective study of long-term outcome after 25 years of follow-up

Katerina Papakonstantinou, Maria Kyrgiou, Deidre Lyons, William P. Soutter, Sadaf Ghaem-Maghami

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):625.e1-625.e6

【文献番号】 g02500 (子宮頸癌、子宮頸部腫瘍)

分娩、出産準備状態、産道、エラストーゼ、自然経膈分娩.....9

妊娠中において膈に明らかな適応反応が認められるが、このような変化は経膈分娩の準備状態に関わっているものと思われる。膈の下降や妊娠第1三半期におけるエラストーゼの活性のレベルの上昇は合併症を伴わない自然経膈分娩の尤度の上昇と相関する。

Maternal adaptations in preparation for parturition predict uncomplicated spontaneous delivery outcome

Sallie S. Oliphant, Ingrid E. Nygaard, Wenjun Zong, Timothy P. Canavan, Pamela A. Moalli

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):630.e1-630.e7

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

卵巣癌、進行期、完全病理学的反応性、腫瘍減量手術、ネオアジュバント化学療法、予後予測因子... 11

進行期の卵巣癌患者においてネオアジュバント化学療法が必要となったものにおいて完全な病理学的反応性を認めることはあまり多くはない。完全病理学的反応性が認められた患者においては、それ以外の患者と比較し無進行性生存率は延長し、全生存率も延長するという結果が得られた。このような結果は肉眼的に残存病変を認めない状態まで腫瘍減量手術が行われた患者においても認められた。現在試みられている病理学的反応性の区分は、臨床の場において容易に予後の予測ができる価値が高い有用な方法であると思われる。

Prognostic role and predictors of complete pathologic response to neoadjuvant chemotherapy in primary unresectable ovarian cancer

Marco Petrillo, Gian Franco Zannoni, Lucia Tortorella, Luigi Pedone Anchora, Vanda Salutari, Alfredo Ercoli, Pasquale Alessandro Margariti, Giovanni Scambia, Anna Fagotti
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):632.e1-632.e8

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

境界型卵巣腫瘍、温存療法、ノモグラム、再発率、予測モデル.....14

境界型卵巣腫瘍患者において5つの臨床的および病理学的パラメーターをもとにノモグラムを作成し再発率の予測を試みたところ、手術患者に情報を提供する際に有用な高い一致率が認められた。このノモグラムの有用性を外部評価によって確認する必要がある。

Nomogram to predict recurrence in patients with early- and advanced-stage mucinous and serous borderline ovarian tumors

Sofiane Bendifallah, Marcos Ballester, Catherine Uzan, Raffaele Fauvet, Philippe Morice, Emile Darai
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):637.e1-637.e6

【文献番号】 g04140 (境界型卵巣腫瘍)

妊娠糖尿病、GCT、OGTT、双胎妊娠、カットオフ値16

双胎妊娠において妊娠糖尿病のスクリーニングを試みる場合、1時間50g GCTのカットオフ値は135mg/dl以上とするのが妥当と考えられる。

Screening approach for gestational diabetes in twin pregnancies

Andrei Rebarber, Cara Dolin, Jessica C. Fields, Daniel H. Saltzman, Chad K. Klauser, Simi Gupta, Nathan S. Fox
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):639.e1-639.e5

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

妊娠糖尿病、スクリーニング、HgbA1c18

患者の10%超が妊娠早期のスクリーニングにおいてHgbA1cが5.7～6.4%であった。このグループの女性においては妊娠糖尿病へ進展するリスクは正常値を示した群に比べ有意に高く、妊娠糖尿病の有無を注意深く調べ適切に対応する必要がある。

Use of hemoglobin A1c as an early predictor of gestational diabetes mellitus

Alex Fong, Allison E. Serra, Lauryn Gabby, Deborah A. Wing, Kathleen M. Berkowitz
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):641.e1-641.e7

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

胎児心拍モニタリング、カテゴリーII、胎便、リスク因子、新生児合併症20

胎児心拍モニタリングでカテゴリーIIと診断された女性において胎便が認められた場合には、新生児合併症のリスクは上昇した。胎便は分娩中にカテゴリーIIと診断されたものの管理を行う臨床家にとって、有用なマーカーとなると考えられる。

Interpreting category II fetal heart rate tracings: does meconium matter?

Heather A. Frey, Methodius G. Tuuli, Anthony L. Shanks, George A. Macones, Alison G. Cahill
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):644.e1-644.e8

【文献番号】 o04600 (胎児心拍モニタリング、血液ガス、血流動態、胎児切迫仮死、オキシメトリー)

妊娠第1三半期、染色体異常、非侵襲的出生前検査、出生前診断、出生前スクリーニング23

非侵襲的出生前検査であるNIPTを採用することによって、代替となる出生前スクリーニングと診断検査の実施頻度は短期間に減少した。

Uptake of noninvasive prenatal testing at a large academic referral center

Sebastian Larion, Steven L. Warsof, Letty Romary, Margaret Mlynarczyk, David Peleg, Alfred Z. Abuhamad
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):651.e1-651.e7

【文献番号】 o09200 (染色体異常、出生前診断、遺伝相談)

心血管疾患、preeclampsia、子癇前症、心血管系リスク因子、疫学調査、インシュリン抵抗性.....25

軽症および中等症のpreeclampsiaと診断された女性においては重症preeclampsiaと診断された女性と異なり、出産後11年を経た時点においてネガティブな代謝、心血管系のリスクのプロフィールを認めるという結果が得られた。

A population-based study of associations between preeclampsia and later cardiovascular risk factors
Ingvild V. Alsnes, Imre Janszky, Michele R. Forman, Lars J. Vatten, Inger Okland
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):657.e1-657.e7

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、子癇前症、妊娠高血圧、妊娠高血圧性疾患、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

待期療法、胎児死亡、死産、周産期死亡、人種.....27

妊娠週数別に周産期死亡のリスクを調べたところ人種によって絶対的なリスクに差異はあるが、妊娠9週において待期療法に伴う児の死亡のリスクは分娩に伴う児の死亡のリスクを上回った。

The mortality risk of expectant management compared with delivery stratified by gestational age and race and ethnicity
Melissa G. Rosenstein, Jonathan M. Snowden, Yvonne W. Cheng, Aaron B. Caughey
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):660.e1-660.e8

【文献番号】 o10100 (周産期死亡、死産、胎児死亡、新生児死亡、乳児死亡、新生児合併症)

出産、MRI、骨盤、骨盤計測、妊娠、体位、姿勢.....29

骨盤中央部および出口部において肘と膝をついたkneeling squat positionにおいては骨盤の横径と前後径の増大が認められた。女性の体位によって骨盤の計測の値が変化することから体位の変換によって児頭の娩出を促進することができる可能性があり、分娩時の母体の体位と分娩の経過を比較する研究で確認する必要がある。

Does pregnancy and/or shifting positions create more room in a woman's pelvis?
Anke Reitter, Betty-Anne Daviss, Andrew Bisits, Astrid Schollenberger, Thomas Vogl, Eva Herrmann, Frank Louwen, Stephan Zangos
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):662.e1-662.e9

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

羊水、骨盤位、外回転、水分補給、羊水指数.....31

外回転を試みる前に2リットルの低張食塩水を投与する方法は羊水指数の増大をもたらす効果的で安全な方法であるが、外回転の成功率を上昇させる効果は認められなかった。

Effect of maternal intravenous fluid therapy on external cephalic version at term: a prospective cohort study
Jorge Burgos, Eider Quintana, Patricia Cobos, Carmen Osuna, Maria del Mar Centeno, Juan Carlos Melchor
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):665.e1-665.e7

【文献番号】 o04400 (回旋異常、骨盤位、横位、後方後頭位、低在横定位、CPD、巨大児、骨盤計測)

胎児心拍モニタリング、新生児脳症、仮死、低酸素症、虚血症、分娩.....32

中等度から重度の新生児脳症の60%に仮死が関わっており、その多くは分娩中に認められた。入院時の胎児心拍モニタリングの異常なパターンは新生児の臨床結果の悪化を示唆し分娩前の異常な胎児心拍パターンと相関することが多いという結果が得られた。

Neonatal encephalopathy and the association to asphyxia in labor
Maria Jonsson, Johan Agren, Solveig Norden-Lindeberg, Andreas Ohlin, Ulf Hanson
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):667.e1-667.e8

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、新生児痙攣、神経発達障害、脳性麻痺、新生児合併症、新生児アシドーシス)

胎児発育遅延、死産、ドップラー検査、biophysical profile.....35

妊娠34週未満において胎児のいろいろな血管のドップラー検査における異常所見は、その後の異常なBPSと死産のリスクの上昇を予測する因子となる。34週以降においてはbiophysical profile scoring (BPS) が正常か否かで死産のリスクを予測することはできなかったが、中大脳動脈の短期的変化が死産に伴って発現するという結果が得られた。これらの差異は早産あるいは正期産で胎児発育遅延が認められた症例においてモニタリングの間隔について検討が必要であることを示唆するものである。

A comparison of Doppler and biophysical findings between liveborn and stillborn growth-restricted fetuses
Sarah Crimmins, Andrea Desai, Dana Block-Abraham, Christoph Berg, Ulrich Gembruch, Ahmet Alexander Baschat
Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):669.e1-669.e10

【文献番号】 o01400 (SGA、LGA、IUGR、IUFD、FGR)

CRL、出生前スクリーニング、ケアの質、超音波検査.....37

超音波検査でNTを測定する際にその質を示すスコアが高い場合においても、CRLの正確な測定を保証するものではない。CRLの測定の質を評価するために、また、質を向上させるためには特別な方法を考える必要がある。

Quality of first-trimester measurement of crown-rump length

Ferdinand Dhombres, Babak Khoshnood, Roger Bessis, Nicolas Fries, Marie-Victoire Senat, Jean-Marie Jouannic

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):672.e1-672.e5

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

妊娠性絨毛性腫瘍、胞状奇胎、臨床結果、反復絨毛性腫瘍、疫学調査.....38

胞状奇胎の既往歴を有する女性において、その後に妊娠に至ったとしても母体にネガティブな臨床結果をもたらすことはないが、LGAの児の出産、死産および早産のリスクの上昇が認められた。しかし、出生児にネガティブな問題が認められるリスクは極めて低値に留まった。

Hydatidiform mole and subsequent pregnancy outcome: a population-based cohort study

Ulrika Joneborg, Sandra Eloranta, Anna L.V. Johansson, Lena Marions, Caroline E. Weibull, Mats Lambe

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):681.e1-681.e7

【文献番号】 o03820 (絨毛性腫瘍、胞状奇胎、絨毛癌)

帝王切開、低部横切開、鈍的拡張法、鋭的拡張法、臨床結果.....40

帝王切開の際に子宮の切開創を鋭的に拡張するよりも鈍的に拡張した方が意図しない創部の拡大をみる割合は低く、母体の結果にもよい影響を与えるという調査結果が得られた。ヘモグロビンおよびヘマトクリットの変化および手術時間は鈍的拡大した場合において低い値を示したが、その減少幅が臨床的に意義のあるものとはみなされなかった。

Blunt versus sharp uterine incision expansion during low transverse cesarean delivery: a metaanalysis

Antonio F. Saad, Mahbubur Rahman, Maged M. Costantine, George R. Saade

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):684.e1-684.e11

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

分娩様式、産科医、認知特異性、感情特性、対応能力、臨床結果.....42

状況に適した意思決定ができる特性のレベルが高い医師が携わった患者においては手術的経膈分娩のリスクは低下した。その他の認知特性や感情特性に関わる要因は絨毛羊膜炎のリスクや分娩後出血のリスクの上昇と相関した。認知特性や感情特性に対する訓練が産科的臨床結果に変化をもたらすことができるか否かということに関してはさらに研究が必要である。

The relationship between obstetricians' cognitive and affective traits and their patients' delivery outcomes

Lynn M. Yee, Lilly Y. Liu, William A. Grobman

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):692.e1-692.e6

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

肥満、病的肥満、帝王切開、分娩誘発、分娩様式、母体合併症、新生児合併症.....43

クラス IIIの肥満を有する妊婦で満期を迎えた場合、帝王切開を施行したとしても分娩誘発と比較し母体や新生児の合併症のリスクは低下しないと思われる。

Mode of delivery in women with class III obesity: planned cesarean compared with induction of labor

Akila Subramaniam, Victoria Chapman Jauk, Amy Reed Goss, Mitchell Dean Alvarez, Crystal Reese, Rodney Kirk Edwards

Am J Obstet Gynecol.2014 Dec;211(6):700.e1-700.e9

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)